

事務事業	10011	乳幼児家庭訪問事業	担当課	健康課	担当係	健康管理係
計後 画期 体計 系画	施策	05 子どもを安心して生み育てることができるまちをつくる	予算 科目	会計	1	一般会計
取り組み方針	170 親と子の健康を維持・増進する	款		4	衛生費	
		項		1	保健衛生費	
		目		3	母子衛生費	
法令根拠条例等	母子保健法 児童福祉法		個別計画	健康増進計画「健康しめ21」		
実施期間	<input type="checkbox"/> 30年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 H26 年度より開始		<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年)		年度～ 年度	

【事業の目的・内容】(改行は、「Alt」+「Enter」で行ってください)		<input type="checkbox"/> 2次評価会議に提出します (左にチェックを入れる)  乳幼児訪問委託料 1,659 千円 千円 千円 千円
すべての乳児のいる家庭を訪問し、子育てに必要な情報提供を行うとともに、支援が必要な家庭に対しては、適切なサービスにつなぎ、子どもの健やかな育ちを支えることが目的。乳児家庭全戸訪問事業・新生児訪問事業を同時実施。また、訪問等により、継続支援が必要な家庭に対しては、養育支援訪問として、継続的に支援していく。		
【業務内容(町職員の仕事内容)】(改行は、「Alt」+「Enter」で行ってください)		
1回/週、住民課より人口動態を受け取り、個別カルテを作成。委託保健師・助産師及び職員・嘱託職員に振り分け、訪問を依頼。訪問後結果入力。委託料支払い。病医院より継続支援依頼書が届いた児・親に対して、訪問し、結果を報告する(文書または電話)		

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)	30年度に行った主な活動(※箇条書きで記入)
	・訪問カルテ作成 ・訪問振分け・依頼 ・継続(養育支援)訪問依頼 ・訪問後結果入力 ・訪問依頼があった病院への訪問実施報告
② 対象(誰、何を対象にしているのか)	<乳児家庭全戸訪問事業>生後4ヵ月までの乳児とその親 <養育支援訪問事業>全戸訪問・及びその他により、継続支援が必要とされた児とその親
③ 意図(この事業で、対象をどのような状態にしたいのか)	子どもが健やかに育ち、親が安心して子育てをすることができる。

④ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)		指標数値			
名称	単位	29年度	30年度	31年度	
ア 全戸訪問数	回	454	427	450 (見込)	
イ 養育支援訪問数(子育て支援課訪問も含む)	回	106	172	180 (見込)	
ウ				(見込)	
⑤ 対象指標(対象の大きさを表す指標)		指標数値			
名称	単位	29年度	30年度	31年度	
ア 当該年度出生数	人	472	444	460 (見込)	
イ 継続支援が必要とみなされた児の数	人	40	40	40 (見込)	
ウ				(見込)	
⑥ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)		指標数値			
名称	単位	29年度	30年度	31年度	
ア 乳児家庭全戸訪問実施率	%	目標	100.0	100.0	100.0
		実績	95.4	96.2	
イ		目標			
		実績			
ウ		目標			
		実績			
エ		目標			
		実績			
オ		目標			
		実績			

(2) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(千円)		29年度 (決算値)	30年度 (当初予算)	30年度 (決算値)	31年度 (当初予算)	32年度 (計画)	33年度 (計画)
	経費	国・県支出金、地方債等	1,658	2,636	2,235	2,446	2,446	2,446
		受益者負担等						
		一般財源	2,716	2,420	1,846	3,448	3,448	3,448
		合計(A)	4,374	5,056	4,081	5,894	5,894	5,894
		(内臨時・嘱託職員人件費)	2,726	2,565	2,412	3,223		
	正職員人件費[按分](B)	1,356	1,593	1,747	1,931			
	トータルコスト(A)+(B)		5,730	6,649	5,828	7,825	5,894	5,894

# 事務事業評価表(事業実施年度:平成30年度)

## (3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を開始したきっかけは何ですか?いつ頃どんな経緯で開始されましたか?	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化していますか?	③ 事務事業に対して関係者からどんな意見や要望が寄せられていますか?(誰からの意見か明記)
乳児家庭全戸訪問、新生児訪問、養育支援訪問に関しては、H25年5月までは、職員及び嘱託職員の保健師で訪問を実施していた。H25年6月～業務委託を開始し、H26年度からは事務事業として、一つの事業として明確化させた。	母子保健法の新生児訪問に加え、H22年度より児童福祉法における乳児家庭全戸訪問事業、養育支援訪問事業が開始。近年子育て家庭の孤立化や虐待報道の増加により、妊娠中からの育児支援を実施することが勧められている。福岡県においても、妊娠期のケアサポート事業によりH25年より県下の産科医療機関との連携強化が開始しました。	全戸訪問にて訪問した対象者からは、「話すことで育児不安が解消された」「今後も相談できることは心強い」等の意見がきかれた。また、H25年度より、助産師を訪問者に加えたことで、母乳育児についても専門的に支援できるようになったことから、母乳育児で悩んでいる母親からは、「訪問に来てもらえることがありがたい」という声も聞かれている。

## (4) 昨年度の評価結果の取り組み状況調べ

昨年度の事務事業評価結果		30年度の取り組み状況と今後の方針	
事業の方向性	平成30年度の取り組み概要及び期待される効果	実施状況	実施できなかった理由と今後の方針
<input type="checkbox"/> 廃止・休止 <input type="checkbox"/> 目的の見直し <input type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善  <input type="checkbox"/> 事務事業終了 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持・継続		<input checked="" type="checkbox"/> 記述どおり実施できた (コメント必要ありません)  <input type="checkbox"/> 一部実施できた(理由→) <input type="checkbox"/> 実施できなかった(理由→)	

## 2 評価(SEE)及び全体総括の部 \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

### (1) 評価

	評価の理由
<b>目的妥当性評価</b> ① 上位施策への貢献度は大きいですか? ※総合計画を参照してください <input checked="" type="checkbox"/> 貢献度大きい(理由→) <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう(理由→) <input type="checkbox"/> 貢献度小さい(理由→)	出産後早期に訪問することで、育児不安の軽減や、安心して子育てをすることを支えることで、子どもの育ちを支えることにつながる。また、特に全戸訪問事業は、地域の中で子どもが健やかに育成できることを目的に実施されており、施策の目的と一致するところが大きい。
② 税金を使って達成する目的(対象と意図)ですか? (事業の目的は、総合計画の町の役割や基本方針に合っていますか?) <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である(理由→) <input type="checkbox"/> 妥当性が低い(理由→)	出産後産婦人科等で支援するのは1ヵ月健診までで、その後町の4ヵ月健診までは、相談をする機会がない。全戸訪問により、育児不安の軽減と、子育てに関する様々な情報を提供し、支援が必要な家庭を適切なサービスへと結び付けていくことができる。病院での支援には限りがあり、町の税金を使って、妊娠中から産後、育児期を
<b>有効性評価</b> ③ 成果がこれ以上向上する余地(可能性)はありますか? <input type="checkbox"/> 成果向上余地がある(理由→) <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上余地がない(理由→)	H25年度より業務委託を開始したことにより、早期の訪問が可能になり、助産師が専門職として加わることでより充実した支援が可能となっているため、これ以上の成果向上余地はない。
<b>評価</b> ④ 廃止・休止した場合、成果への影響はありますか? <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(理由→) <input type="checkbox"/> 影響なし(理由→)	廃止した場合、乳児をもつ母親が育児不安を感じた時に相談できる場を知る機会が減ることや、町として、支援を必要とする家庭を把握することができなくなる可能性がある。そのため、育児中の母子の孤立化等影響が考えられる。
<b>効率性評価</b> ⑤ 現状の成果を落とさずにコスト(予算+事務従事時間)を削減する新たな方法はありますか?(広域連携や民間委託等の導入など) <input type="checkbox"/> ある(具体的な内容→) <input checked="" type="checkbox"/> ない(理由→)	H25年度より業務委託を開始し、業務の効率性は向上した。今以上のコスト削減余地はない。

### (2) 30年度を振り返って(全体総括・反省点)

全戸訪問は、5年前から業務委託になり、必要な家庭には早期に関わることができるようになった。また、訪問する委託保健師・助産師の人材の確保もできている。全戸訪問を実施できなかった方は、長期里帰りや長期入院等であり、里帰り先に訪問依頼をしたり、来庁対応等で、こどもの確認はできている。養育訪問も、子育て支援課の保健師と健康課保健師と一緒に訪問し、継続的に支援できるように行っている。今後も切れ目ない支援ができる支援体制づくりをしていく。
---

## 3 今後の方向性(31年度以降の計画と32年度予算への反映)(PLAN)

<b>(1) 今後の事業の方向性(複数選択可)</b> <input type="checkbox"/> 廃止・休止(理由→) <input type="checkbox"/> 目的の見直し(内容→) <input type="checkbox"/> 有効性改善(成果向上)内容→ <input type="checkbox"/> 効率性改善(コスト削減)内容→  <input type="checkbox"/> 事業終了 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持・継続	<b>(2) 平成31年度以降に取り組む内容と期待される効果</b>
---	------------------------------------